

## 東京女子大学英語教育自己点検・評価及び外部評価

(キャリア・イングリッシュ・アイランド及びキャリア・イングリッシュ課程について)  
を終えて

本学は、教育の改善に役立てるため、大学全体で組織的かつ恒常的に PDCA サイクルを回し、毎年テーマを定めて自己点検・評価活動を行っております。

今回は、全学的に英語教育を見直す一環で、多岐にわたる教育プログラムの中からキャリア・イングリッシュ・アイランドとキャリア・イングリッシュ課程に焦点をあて、自己点検・評価及び外部評価を行いました。

自己点検・評価結果については、公平性、妥当性を担保するため外部評価委員による評価も行うこととし、内田諭氏（九州大学大学院言語文化研究院准教授）、山崎のぞみ氏（関西外国語大学外国語学部准教授）、川端均氏（エスディーテック株式会社デザインエンジニアリング部テクニカルマネージャー）に外部評価委員をお願いしました。本報告書と根拠資料による書面審査により、ご評価をいただきました。

外部評価委員による評価報告書は、本報告書と共に本学公式サイトに掲載いたしましたので、ご高覧いただければ幸いです。

本学では、東京女子大学ブランドビジョンに「国際社会で活躍する女性の育成」を掲げております。今回の自己点検・評価活動では、当該教育プログラムの見直しに留まらず、ブランドビジョンの基に「英語教育の強化」や、「国際的視野を育む教育環境の整備」を推進するヒントを得ることができました。外部評価委員の先生方には、報告書についてご評価いただき、また、多くの有益なご助言をいただきましたことに感謝申し上げます。今回頂きました評価内容は、全学で共有し、教育改善に役立ててまいります。

2020年3月

東京女子大学 学長 茂里 一紘

自己点検・評価委員長 大山 淑之

東京女子大学  
英語教育自己点検・評価報告書

キャリア・イングリッシュ・アイランド及び  
キャリア・イングリッシュ課程について

2020年1月

東京女子大学 自己点検・評価委員会

東京女子大学英語教育自己点検・評価報告書  
キャリア・イングリッシュ・アイランド及びキャリア・イングリッシュ課程について

目 次

	頁
はじめに . . . . .	1
キャリア・イングリッシュ・アイランド	
1 - 1 キャリア・イングリッシュ・アイランド(CEI)の活動状況及び成果 . . . . .	3
1 - 2 大学としての(学内の)変化への対応状況 . . . . .	6
キャリア・イングリッシュ課程	
2 - 1 キャリア・イングリッシュ課程の成果 . . . . .	8
2 - 2 大学としての変化への対応状況(キャリア・イングリッシュ(CE)課程に関して) . . . . .	12
基礎資料・根拠資料 . . . . .	別冊

## はじめに

東京女子大学現代教養学部の特徴は、学部教育全体を広義のキャリア教育と位置づけ、正課教育と正課外教育との連動による体系的なキャリア構築支援を全学的に展開している点にある。本学のリベラル・アーツ教育に基づくキャリア構築支援は、特定の職種・分野の能力、技能を教授する狭義の職業教育ではなく、学生自らが4年間の学びを通して、変化する社会や世界の情勢に柔軟に対応できる汎用的能力を育成し、生涯にわたって社会に貢献できる自立した女性を育てることに力点を置いている。

特に2018年度以降は、学部再編及び教育課程改正により、国際性、女性の視点、実践的学びを重視した教育を充実させた。自ら課題を発見し、知識・能力を行動に移す「専門性をもつ教養人」を目指している。

このようなキャリア教育の視点に立ち、本学では、以下に掲載する東京女子大学グランドビジョン「育成する人物像」を掲げている。

### 1. 知力（知識）を行動力にするリーディングウーマン

論理的思考に基づく判断力・決断力・実行力を備えた女性、他者を尊重し協働できる女性

- ・多様性を受容し包摂する力を育成する教育
- ・異なる考えや意見を受け入れる力を育成する教育
- ・問題解決型教育（PBL）の展開

### 2. 国際的な視野をもった地球市民としての女性

- ・グローバルビジョン育成のための教育の推進
- ・国際的視野を育む教育環境の整備
- ・多文化共生社会への理解を深める教育
- ・英語教育の強化（キャリア・イングリッシュ・アイランド事業等の推進）
- ・英語による授業の展開
- ・留学・海外体験の奨励・促進

### 3. 専門性と幅広い教養をもった女性

- ・本学独自のリベラル・アーツ教育の一層の推進
- ・文理融合型の教育の展開
- ・専門教育の充実による高度な専門的職業人および研究者の育成
- ・体系性・順次性をもった専門教育の推進
- ・幅広い視点から考える力を養う全学共通カリキュラムの充実

### 4. キャリアをカスタマイズする女性

生涯にわたって主体的に学び続け自らキャリアを構築する女性

- ・正課教育と正課外教育の連携によるキャリア教育の充実
- ・一人ひとりの生涯にわたるキャリア構築支援

- ・一人ひとりの個性に合ったキャリア支援の充実
5. 2 1 世紀の高度情報化社会に対応できる女性
- ・高度の ICT リテラシを身につける教育
  - ・データ・証拠に基づく理解・課題解決能力の育成

「キャリア・イングリッシュ・アイランド」は、2004 年度に文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に採択された取り組みで、ラーニング・コモンズのパイオニア的なプログラムとして開始された。同プログラムの一環で、8号館の一室にある「キャリア・イングリッシュ・アイランド」（以下「CEI」とする。）を拠点として、全学生が自由に参加できる英語学習やキャリア形成のための啓発活動を行う〔1-1・1-2 に記述〕ほか、正規教育課程において選抜した学生を対象とするプログラム「キャリア・イングリッシュ課程」（以下、「CE 課程」とする。）〔2-1・2-2 に記述〕を設置しており、いずれもキャリア・イングリッシュ・アイランド運営委員会が運営を行っている【基礎資料3】。

CEI では、上述したキャリア教育の見地から「英語を活用するためのモチベーションを高め、将来へのキャリア展望を育成する」ことを目的とし、「国際社会で積極的に活躍できる英語力」という意味での「行動的な英語力」の習得を目標に掲げている。「実践的な英語運用能力を身につけ、英語を使った仕事に必要な知識や心構えを養い、将来のキャリアへの展望を得ることを期待し支援」するとしており、単なる英語力強化に留まらず、英語によって発言・発信する力、英語を通したプレゼンテーションやディスカッションスキルを養成する多様な英会話クラスを置いている。また、キャンパス内で国際交流を体験できるランチタイム・セミナーや、海外の大学との間で実施するビデオ・カンファレンス、留学経験者や海外で活躍する企業人による講演会、交流会等の開催をあわせて行い、グランドビジョンに掲げる「国際的視野」、「多様性への理解」涵養の一端を担っている。

一方、CE 課程は、1年次の応募者から選抜された学生（60名程度）を対象とする、2年次から4年次にわたる正規課程の教育プログラムである。CEI と同じく「行動的な英語力」を掲げており、「リベラル・アーツ教育をとおして培われる識見と語学力をもとに、国際社会で活動できる『行動的な英語力』を身につけた人材を育成する」こと、「プレゼンテーション、ディスカッション、および、そのための思考力、リサーチ方法、論旨構成法、英語表現法等の総合的な力を身につける」ことを到達目標としている。

## 1-1 キャリア・イングリッシュ・アイランド(CEI)の活動状況及び成果

### 現状の説明

CEI は本学の 8 号館 2 階の「アイランド」という拠点を中心に、全学生が自由に参加できる英語学習やキャリア形成のためのさまざまな啓発活動を行っている。

主なプログラムは、1) ネイティブスピーカーによる英会話トレーニング、2) セミナーと講演会、3) アメリカの大学からのインターンシップ学生との交流、4) 海外の大学とのビデオ・カンファレンス、5) 英語と就職に関するアドバイス、6) ライブラリの提供である。

#### 1) ネイティブスピーカーによる英会話トレーニング

ネイティブスピーカーのトレーナーによって行われ、「本学の教員による会話とディスカッションのクラス」、「プロフェッショナル・トレーナーによる TOEFL Speaking 講座と英会話トレーニング講座」、「在日留学生による日常会話のクラス」の 3 種類のトレーニングを設置している【1-1-1】。なお、月曜日から金曜日まで毎日 2 コマから 6 コマ開講している【1-1-2】。

2014 年度に参加した延べ学生数は 2,825 名、2015 年度は 2,908 名、2016 年度は 2,814 名、2017 年度は 2,847 名、2018 年度は 2,687 名であった【1-1-3 p.1「1.アイランド年間利用者数」】。2018 年度は前年度に比べて、2 年次と 4 年次で増加した。特に 4 年次の増加は、就職活動終了後に参加した学生が多かったためである。しかし、1 年次と 3 年次で減少した。特に 1 年次では昨年度比 30%の減少であり、2018 年度の国際英語学科(国際英語専攻)新設の影響や 1 年次へのアピール不足が原因として考えられる。

2018 年度後期の「プロフェッショナル・トレーナーによる TOEFL Speaking 講座と英会話トレーニング講座」を受講した学生に行った調査で、受講者の内 32 名から得た回答を集計した結果、「このクラスを取って満足していますか?」という質問に対して、81.3%が「大変満足」、18.8%が「まあ満足」と回答している【1-1-4】。また、「あなたはこのクラスを他の人に勧めますか?」という質問に対して、96.9%が「勧める」と回答している【1-1-4】。

#### 2) セミナー・講演会

英語を使って社会の第一線で活躍する卒業生や企業人による講演会、英語やビジネスに関するランチタイム・セミナーを行っている【1-1-5】。2019 年度に開催した講演会「スロバキアからみた世界」、ランチタイム・セミナー「ハワイでの新たな教育アプローチ」においても、外部講師と英語での活発な質疑応答が行われた【1-1-6】【1-1-7】。

2014 年度に参加した延べ学生数は 1,015 名、2015 年度は 918 名、2016 年度は 1,010 名、2017 年度は 722 名、2018 年度は 1,279 名であった【1-1-3 p.1「1.アイランド年間利用者数」「イベント」欄】。2018 年度は前年度に比べて、学生の参加が大幅に増加した。CE 課程を履修する 2 年次学生全員がセミナーや講演会などの係を担当して参加するようにしたことや、TOEIC 説明会、OLPC 説明会(OLPC は、TOEIC を主催する ETS(Educational

Testing Service)公認の TOEIC オンライン教材(TOEIC Official Learning and Preparation Course) )の開催によるものと考えられる【1-1-3 p.1「2.講演会・セミナー等のイベント」】  
【1-1-8】。

### 3) アメリカの大学からのインターンシップ学生との交流

本学では、アメリカのマウントホリオーク大学と協定を結び、毎年インターンシップ学生を受入れている。インターンシップ学生は外国人専任教員の指導の下で約2ヶ月間 CALL や英語授業の補助を務める他、CEI において、文化交流を含む英語の教育活動としてランチタイム・セミナーを開いたり、英会話のクラスの講師を担当している【1-1-9】。

2018 年度は、英会話トレーニングを5回実施し参加者は延べ62名、ランチタイムの Presentation を2回実施し参加者は延べ38名、インターン学生のための Farewell Party には26名が参加した【1-1-10 p.1「1.講演会・セミナー等のイベント」】。

### 4) 海外大学とのビデオ・カンファレンス

アメリカやアジアの学生達と、トピックを決めてビデオ・カンファレンスシステムを用いて英語のディスカッションを行い、文化の相違・類似点を語り合う交流を行っている。2018 年度は10名の学生が参加して「女性の働き方や昇進事情についての日米比較考察」という内容でアメリカのダートマス大学の日本語を学習している学生と交流を行った【1-1-3 p.1「2.講演会・セミナー等のイベント」】【1-1-11】。

### 5) 英語と就職に関するアドバイス

英語学習アドバイザーが、e-learning (ATR CALL BRIX の TOEIC 講座) による4技能強化の課題を出し、英語力のレベル判定をしたうえで、さまざまな英語学習についてのアドバイスを行っている【基礎資料2】。また、キャリア・カウンセラーは就職に関するセミナーや学年を越えた交流会を開催している【1-1-12】【1-1-13】。

2018 年度の英語学習アドバイザーによる英語学習アドバイスは延べ50件であった【1-1-14】。

2018 年度の英語学習アドバイザーによる学習セミナーは、4月に「アイランド説明会」が2回行われ参加者は延べ53名、同じく4月に「eポートフォリオ説明会」が2回行われ参加者は延べ62名、6月に「経験者に聞く留学・短期留学のすすめ」が開かれ、参加者は15名であった【1-1-11 p.2「経験者に聞く留学・短期留学のすすめ」】。

2018 年度の学年を越えた交流会は11月のランチタイムに2回開催され、延べ42名の学生が参加した【1-1-3 p.1「学年を越えた交流会」】【1-1-13】。

### 6) ライブラリの提供

講演会やセミナーの DVD、就職やビジネスに関する図書、TOEIC、TOEFL、IELTS 対策用を含めた英語学習用の教材、雑誌、図書、CD、BBC 放送の視聴や英字新聞を用意している。

2014 年度に利用した延べ学生数は1,290名、2015 年度は1,709名、2016 年度は1,394名、2017 年度は589名、2018 年度は557名であった【1-1-3 p.1「1.アイランド年間利用

者数」「図書」欄】。ライブラリを利用した学生数が 2017 年度以降に減少している理由は、著作権の取り扱いの変更により DVD と CD-ROM の貸し出しを中止したことや、OLPC 受講などにより問題集の貸し出しが減っていることが考えられる。

### 点検・評価

グランドビジョンに基づき、CEI の目標である「行動的な英語力」養成のために幅広くプログラムを展開していることは評価できる。

主要なプログラムの一つである英会話クラスについて、学生アンケートにより、高い満足度を得られていることは評価できる。ただし、2018 年度 1 年次については、大幅に参加学生数が減少していることについては改善の余地がある。

### 改善の方策

2018 年度 1 年次の英会話クラス参加者数が大幅に減少した点については、原因を確認する。また、2018 年度に実践的な英語力養成のプログラムを強化した国際英語学科を新設したことや、同学科の 2 年次後期に全員が海外留学するスタディ・アブロード・プログラムが開始したことなどの教育課程改正の影響等についても検証し、今後のアイランド運営に役立てていく。



## 1-2 大学としての(学内の)変化への対応状況

### 現状の説明

#### (1)学力分布やニーズの変化への対応

全学向けの施設である CEI は、多様なレベルの学生にサービスを提供してきたが、全般的に大学生の英語力が低下しているとされる状況に対応するための改善も行っている。「ネイティブスピーカーによる英会話トレーニング」の中核的存在である「プロフェッショナル・トレーナーによる TOEFL Speaking 講座と英会話トレーニング講座」について、受講生の英語力のばらつきにより効果的な運営が困難な状況が見られ、レベル別少人数のクラス設置の希望が多くなったため、2016 年度後期から一回当たりの時間およびクラスサイズを半分にし、クラスのレベルを明記することにした【1-2-1】【1-2-2】。クラス数を増やすことによって、内容も多様化することができた【1-1-2】。さらに、学生のニーズに対応するために、2018 年度には「Global Communication 講座」、2019 年度には「English Abroad」と称するクラスを新設した【1-2-3】【1-2-4】【1-2-5】。2020 年のオリンピックに向けて、海外の人とコミュニケーションをとる際に多用される表現を学ぶクラスも開講する予定である。【1-2-6】

#### (2)外部英語検定試験に対する需要の高まりへの対応

留学及び教職を含む就職活動において、外部英語検定試験が評価の一部に用いられ、近年、それらに対する需要が益々高まっている。特に、新設の国際英語学科では2年次後期の留学が必修であり、留学を許可されるためには基本的に IELTS を受験し、一定以上のスコアを修めることが求められる。CEI では、検定試験対策として、ランチタイム・セミナー、TOEIC や IELTS などの対策講座を実施している。

ランチタイム・セミナーは、CEI の教員や英語学習アドバイザー、外部講師が昼休みに実施する講習会で、キャリア形成や留学に関する講演のほか、検定試験についての解説を行う回も設けている。例えば、2018 年 10 月 24 日分のテーマは IELTS であった。さらに、ランチタイムには TOEIC テスト説明会、TOEIC Speaking テスト説明会なども実施している【1-1-3 p.2「英語学習アドバイザー 伏見奈美氏によるセミナー」】【1-1-10 p.1「講演会・セミナー等のイベント」】【1-2-7】。

2018 年度には、TOEIC オンライン教材 OLPC を導入した【1-1-8】。既に延べ 400 名が受講し、これを利用して、1 カ月の集中学習でスコアが 676 点から 810 点に向上したり、春休み 2 カ月の集中学習で 780 点から 850 点に伸びたりした学生が現れている。1 年次学生は英語学習へのモチベーションが高く、受講者が多いが、就職活動中の 3, 4 年次学生は減る傾向にあるため、キャリア・センターから周知を図った【1-2-8】。

CEI では英語学習アドバイザーが個別面談に応じている。国際英語学科の学生から、留学先を決定する際に用いられる IELTS に対する相談が増え、それに対して適宜助言を与えて

いる【1-1-14】。

#### **点検・評価**

担当教員や英語学習アドバイザー、スタッフが、学生の状況を把握し、キャリア・イングリッシュ・アイランド運営委員会に報告して、恒常的に改善に努めている。英語力のレベル二極化や学生のニーズの変化に対応し、英会話クラスを分割・新設や、ランチタイム・セミナーに外部英語検定試験対策を取り入れるなど、機動性をもって改善を積み重ねている点は評価できる。

今後は英会話クラスの分割、新設により受講者の状況はどのように変化したか、また、受講者の学習効果について、検証していくことが求められる。

#### **改善の方策**

キャリア・イングリッシュ・アイランド運営委員会での審議を受けて改善した事項については、定期的に振り返りを行い、その効果や適切性について検証を行う。

## 2-1 キャリア・イングリッシュ課程の成果

### 現状の説明

#### (1)活動内容・カリキュラム

課程の履修者は1年次学生の応募者から選抜される。募集人数は60名程度で、1年次学生のうち必修英語4科目4単位を含む30単位以上修得見込みの者が応募資格を持つ。応募者に対しては、1年次全員が後期に受験する外部英語検定試験(TOEIC)のスコア、面接、1年次履修科目の成績などを総合した選抜が行われる【2-1-1 p.196】。履修者は2年、3年、4年次と3年間にわたって東京女子大学のリベラル・アーツと各専門分野の考え方を学びつつ、CE課程のカリキュラムを通して一人ひとりの独創性や積極性を育み、英語で自己発信する力を培う【基礎資料1 p.27】。

課程のカリキュラムは、「コミュニケーション能力育成科目」、「キャリア探求英語科目」、および「グローバル・ビジョン拡大科目」から構成されている【基礎資料1 p.27】。

課程のカリキュラムのコアとなる「コミュニケーション能力育成科目」の内、中心となる演習科目(6科目)はCE課程の登録者のみが履修できる授業である。そこではプレゼンテーション技術をはじめ、論理的に考え、ディスカッションする能力を高めることを主目的として掲げている。当該の6科目は、プレゼンテーションの基礎を学び訓練する「発話・パフォーマンス演習」(2年次)、論理的な判断力と思考力を習得する「Critical Thinking 演習」(2年次)、議論を含めた英語によるコミュニケーション力を向上させる「討論演習1・2」(3年次)、そして調査、議論、発表までのプレゼンテーションの集大成としての「トータルプレゼンテーション演習1・2」(4年次)である【2-1-2~2-1-6】。課程修了に必要な最低単位数は42単位であり、上記6科目は必ずそこに含まれていなければならない【2-1-1 p.198】。

CE課程の履修者は、定められた単位の修得と卒業論文等の要旨を英語で発表する「プレゼンテーション実技試験」に合格する必要がある。さらにTOEIC・TOEFLなどの外部英語検定試験で所定のスコアを獲得することが求められる【2-1-7】。これら全ての要件を満たした者には、卒業時に課程修了が認定され、「キャリア・イングリッシュ課程修了証」が交付される【2-1-1 p.196】。

CE課程では、これらに加えて課外学習としてe-learningやe-ポートフォリオ(オンラインでの英語学習・英語活動記録)を利用し、英語力の強化を図り、自律的学習力を養っている。特に、2016年度からは、TOEICの対策として、OLPC、ATR CALL BRIX(TOEIC講座)を導入しており、課程履修者に受講を勧めている【1-1-8】【2-1-8】【2-1-9】。

また、課程履修者には前述のCEIを積極的に利用することを強く推奨している。CEIで実施している「ネイティブスピーカーによる英会話トレーニング」、「海外の大学との英語によるビデオ・カンファレンス」、「英語・ビジネス・NGO等に関する講演会・セミナー」を、ポイント付与の対象とし、ポイント数に応じた表彰や図書の優先的な貸し出しなどを

行うことで、学習を進める際の動機付けのひとつにしている。

これらに加えて、CEI では、CE 課程履修者の 4 年次学生が就職活動や進路決定、学生生活などについて、自身の経験を語る「学年を越えた交流会」等、相互交流の機会を設けており、就職や学習について学生間の情報交換を促している【1-1-13】。交流会は非課程履修者にも開放されており、課程履修者が学年・学科・専攻を超えて、他の学生に対し自らの自律的に学ぶ姿勢を示す機会となっている。

## (2)学修成果

CE 課程では、英語で発信する力（議論および発表）を身につけ、キャリアを形成するための独自の英語力養成プログラムを組んでいる。授業においては「発話・パフォーマンス演習」、「討論演習」、「トータルプレゼンテーション演習」を年次ごとに設置し、これらのクラスを順次履修させることで、課程履修者の討論する力・発信力を段階的に身につけさせている。また、「Critical Thinking 演習」は、英語で論理的に考え議論し、人に伝える方法を学ばせている【2-1-2～2-1-6】。履修した学生へのインタビューでは、当該授業により得た知識や技法が英語だけではなく、日本語使用の場においても有用であったとの実感を持っていることが確認できた。具体的には、卒業論文の執筆や就職活動、対人コミュニケーション全般において、そうした知識や技法が有効という主旨のコメントを履修者から得ている【2-1-10】。

課程の掲げる「行動的な英語力」を備えてプログラムを修了するため、最終段階における、プレゼンテーション実技試験にはキャリア・イングリッシュ・アイランド運営委員とネイティブスピーカーの教員が審査基準に沿って発表内容を審査し、厳格に認定を行っており、大多数がこれに合格する水準に達している【2-1-11】。なお、課程履修者は予め、WebClass によりプレゼンテーション実技試験の評価のポイントを確認した上で、実技試験に臨んでいる【2-1-12】。

2016 年度以降の課程履修者については、修了要件を見直し、外部英語検定試験で一定以上のスコアの取得を要件に追加した。また、2019 年度課程生から TOEIC のスコア基準が引き上げられた【2-1-7】。外部英語検定試験結果については、成績結果の優等・優良者を表彰しており、課程修了直前までスコアアップのために努力する動機付けのひとつになっている。

また、修了者の質保証のため、授業科目の履修や実技試験の他にも、e-learning や e-ポートフォリオ（オンラインでの英語学習・英語活動記録）を利用して英語力の強化と自律的学習力の養成に努めている【2-1-8】。

これらの成果は、課程履修者の外部英語検定試験のスコアや、学生に実施したアンケート結果に現れている【2-1-13】。

例えば、CE 課程履修者の TOEIC のスコアは 2016 年度以降、全体として上昇の傾向を示している【2-1-14】。

また、全学生に 1 年次入学時と 2 年次後期に受験させている TOEFL ITP®のスコアを、課程履修者とそれ以外の学生で比較したところ、2016 年度入学者、2017 年度入学者ともに、スコアの平均値が高く、また、入学時と比較した際のスコアの伸び方も顕著になっている【2-1-15】。

12 月に行う 2 年次対象「英語学習に関するアンケート」(2017,2018 年度実施)の結果からは、CE 課程の履修者が自らの英語力が伸びたと感じている割合が、非課程履修者のそれに比して高いという傾向が得られた。これは特に英語のライティングとスピーキングにおいて顕著であった【2-1-16 Q.1】【2-1-17 Q.1-1】。

### (3)CE 課程履修者の積極性、自律的な学びへの姿勢

12 月に行う 2 年次対象「英語学習に関するアンケート」(2018 年度実施)では、CE 課程の履修者は、自らの英語力をさらに伸ばしたいと感じている割合が非課程履修者のそれに比して高いという傾向を示している【2-1-17 Q.1-2】。必修科目としての英語の授業がなくなる 3 年次に向けて、英語学習への高い動機付けが維持されているといえる。

2019 年度には、大学祭「VERA 祭」と同日に、課程で学んだ卒業生と在学生との交流を目的とした「アイランドカフェ」を開催した。参加した卒業生のコメントには、CE 課程で学んだことを社会で生かしている例が見られ、英語使用や学習に関する意欲が継続していることがうかがわれる。CE 課程修了者は、一般的に総合職への採用が多く、課程で身につけた英語力、プレゼンテーション力、討論する力が評価されていると考えられる【2-1-18】。

2013 年度から 2017 年度に入学した学生についてのデータによると、CE 課程履修者のうち協定校留学(本学が外国の大学との間で締結した協定により留学する制度)に参加した学生の割合は、2017 年度を除き、一般学生に占める協定校留学参加学生の割合に比べて高い。認定校留学(学生個人が希望する大学に本学の認定を受けた上で留学する制度)についても同様の傾向が確認された。また、大学が提供する語学研修に関しても同様に、CE 課程履修者は非課程履修者よりも積極的にそれらのプログラムに参加する傾向がみられる【2-1-19】。CE 課程で受けた教育と経験が、留学や語学研修への参加を促進していると考えられる。

一方で、近年、CE 課程に登録した学生の中に 3 年間のプログラムを修了しない学生の割合がやや増加している【2-1-11】。課程を辞退する際には CEI 担当教員と面談を行い、辞退する理由を報告することとなっている。CEI では学生の辞退理由を蓄積しており、適宜 CEI 運営委員会に報告して、課程運営上の改善を図っている。詳細は、報告書 p.12「(3)課程履修者のレベルの二極化」参照。

## 点検・評価

段階的に発信力や議論をする力がつくように授業内容が組まれている点、修了を認定するために、多様な手段を用いて学修成果を可視化し、到達度を確認している点は評価できる。

2016 年度以降に課程登録した学生を対象として、初めて外部英語検定試験での特定のスコアを修了要件としたため、今後もデータを蓄積の上、スコア条件設定の妥当性や、当該検定試験を選定したことについての適切性について、検証していく必要がある。

修了を判定する機会として重要視されているプレゼンテーション実技試験については、予め評価のポイントを課程履修者に共有し、到達度を意識して試験に挑めるよう配慮している点は評価できる。今後は、その評価や採点の基準をルーブリック等で学生に対して示すことで、修了者の質保証に努めていることを明確化させることが望ましい。ルーブリックの導入によって、学生に到達度をフィードバック出来るようになる。評価基準の可視化や平準化にも寄与する。課程履修者を対象とする演習科目と併せてこれを導入することで、プログラム全体の体系性が可視化されるという利点が考えられる。また、授業担当者と学生の双方にとっては、3年間のプログラムにおけるそれぞれの段階での到達目標と各目標間の連動性がよりみえやすくなる。

3年間のプログラムを修了しない学生の割合がやや増加する傾向がみられる点については、CEIで蓄積している情報を基に、学生の学修状況の把握に努め、状況を改善することが求められる。

## 改善の方策

修了要件として設定した外部英語検定試験の種類、スコア、履修者の修了率については、今後継続的にデータを蓄積の上、その適切性、整合性を検証していく。

プレゼンテーション実技試験や、課程の演習科目について、ルーブリックの導入をキャリア・イングリッシュ・アイランド運営委員会で検討し、修了者の質保証に努めるとともに、学生本人に対する学修成果のフィードバックを進める。

今後も CEI で学生の辞退理由や学修状況についての情報を蓄積する。また、CEI とキャリア・イングリッシュ・アイランド運営委員会で連携し、CE 課程の運営上の改善を積み重ねることによって、CE 課程修了率の向上につなげる。

## 2 - 2

大学としての変化への対応状況(キャリア・イングリッシュ(CE)課程に関して)

### 現状の説明

#### (1)CE 課程の応募者数及び所属専攻分布の変化

専攻別課程出願者数(過去5年)を見ると、従来より人文学科英語文学文化専攻や国際社会学科国際関係専攻の学生が多く応募していたが、2019年度の選抜では、出願者の所属専攻分布に変化が生じている【2-2-1】【2-2-2】。

また、2019年度課程生募集では応募者が募集目安の60名に満たず、2次募集をおこなった。専攻ごとの出願者数をみると、人文学科英語文学文化専攻や人間科学科言語科学専攻を再編した国際英語学科国際英語専攻からの出願が、再編前の両専攻に比べ少なかった。その理由としては、国際英語学科学生全員に留学を課す2年次後期からのスタディ・アブロード・プログラムの開始が考えられる【2-2-3】。

#### (2)国際英語学科スタディ・アブロード・プログラム、留学との両立

2018年度に設置された国際英語学科2年次後期からのスタディ・アブロード・プログラムにより留学する課程履修者や、その他の学科学生で「東京女子大学外国留学に関する規程」に定める留学制度(協定校留学及び認定校留学)により留学する課程履修者に対しては、以下の措置をとっており、教育課程上は、留学と4年間での修了との両立が可能になっている。

- ・2年次後期のCE課程必修科目「Critical Thinking 演習」が履修できなくなるため、国際英語学科2年次前期に開講される「Critical Thinking」の履修をもって、「Critical Thinking 演習」に代えることができる【2-1-1 p.198 注3】。

また、2020年度以降は、同じくCE課程必修科目である「討論演習1」(3年次前期)、「討論演習2」(3年次後期)の段階履修を緩やかにし、留学から帰国後の履修の制約を軽減することが決定している【2-2-4】。従前の教育課程では、履修条件によって1年間の留学と4年間でのCE課程修了が両立できない場合があり、これを理由に課程登録選抜に合格した学生が辞退した事例がキャリア・イングリッシュ・アイランド運営委員会でも報告されている【2-2-2】。今回の教育課程改正による改善もまた、CEIと同運営委員会の連携の中で、上述の情報共有をもとに実現されたものである。

2019年度にスタディ・アブロード・プログラムを開始以降、国際英語学科学生の応募者数は以前の人文学科英語文学文化専攻、人間科学科言語科学専攻学生ほど多くはない。

応募者数減少の理由には、留学準備と課程の両立を負担に感じ応募を見送る、留学と課程修了を両立する必要性を感じないといったことが考えられるが、現時点では明らかになっていない。

### (3)課程履修者のレベルの二極化

キャリア・イングリッシュ・アイランド運営委員会では、近年の課程の状況が以下のように変化したと把握している【2-2-6】。

- ・ TOEIC テスト結果に限定しての状況ではあるが、上位レベルの学生が伸び悩んでおり、中間レベルの学生のスコアが伸びていることが確認されている。
- ・ 上位レベルの学生と、外部英語検定試験の課程修了要件を満たしていないレベルの学生が、途中辞退する傾向にある。
- ・ (2・3 年次は) 1 クラス 30 名でクラス分けを行っているが、人数が多く、英語力や意欲にばらつきがあり、上位レベルの学生の授業満足度が低い。ワークショップ形式の授業運営に支障をきたしている。

CE 課程選抜は従来、応募者の英語力により行っており、第一次選考及び最終選考においても、前年度の標準偏差を参考にしている。しかし、近年の全体的な英語力低下の影響により、これまで通り募集人数目安である 60 名を合格させると上述のようなレベルの二極化が生じてしまうと考えられる。キャリア・イングリッシュ・アイランド運営委員会ではこうした状況に鑑み、近年の選抜では特に、(人数充足よりも) CE 課程で学ぶにあたって十分な英語力を有しているかを重視してボーダーラインを設定し、課程の質保証に努めている。また、2019 年度以降は、レベル別のクラス編成を行い、学生の意欲や授業運営効率の向上を図ることとしている【2-2-6】。

このほかにも、教材の改善により課程履修者のアウトプット量増加を図る、授業参観の実施により授業運営の平準化を図るなど、改善にあたっている。

## 点検・評価

### (1)CE 課程の応募者数及び所属専攻分布の変化

2018 年度の専攻再編及び国際英語学科(国際英語専攻)新設、教育課程改正により、応募学生の人数や所属専攻の分布に変化が表れている。募集に関して何らかの対応が必要である。

専門が異なる学生と切磋琢磨して英語力を向上させていく点も、CE 課程の趣旨の一つであることから、応募学生の所属専攻分布に偏りのある状況については、何らかの改善が必要である。

### (2)国際英語学科スタディ・アブロード・プログラム、留学との両立

CE 課程と留学の両立をした学生が、4 年間で CE 課程を修了し、卒業できるよう措置をとっていることについて、国際英語学科以外の学科においては、意欲があり優秀な学生に対し、留学を選択肢として検討しやすくする点で評価できる。

上記の措置には、帰国後も CE 課程(あるいは英語学習そのもの)へのモチベーションを下げさせない、留学を経験した課程履修者が他の学生への良い刺激になるといった効果も



期待されるが、近年の CE 課程修了率低下の原因分析と合わせ、帰国後の学生の動向について分析が必要である。

国際英語学科については、学科を新設してまだ完成年度に至っていない段階であるため、スタディ・アブロード・プログラムによる学修成果と合わせて、同学科所属学生の動向を引き続き確認していく必要がある。

本学の目指す「国際的な視野をもった地球市民としての女性育成」の一環として、CE 課程の質保証を担保しながら、留学の促進を担うことができるか等、2004 年度に CE 課程を置いて 15 年が経過しているため、英語教育全体における課程の位置づけや役割を再確認し、方針を再検討していく必要がある。

### (3) 課程履修者のレベルの二極化

上位レベルの学生の意欲を維持し修了率を上げられるよう、引き続き対策が必要であるが、課程生選抜の際に定員ではなく英語力によってボーダーラインを定める、2019 年度よりレベル別クラス編成を行うなど、課程修了の質保証の観点から恒常的に改善を積み重ねており、評価できる。

## 改善の方策

### (1) CE 課程の応募者数及び所属専攻分布の変化

応募学生の所属専攻の偏りについては、授業内容を再検討する。

たとえば、各専攻の協力を得て、グラフや図を英語で読み取り説明する、日本文化を英語で発信するなど、各専攻の学びに沿った内容や手法を取り入れることが考えられる。

国際英語学科の学生に対しては、短期的には、留学に向けての準備の一環として CE 課程への参加を促すことが対策として考えられる。長期的には、同学科のスタディアブロードと CE 課程の学びが、相互に学びを深め合う形で有機的に連携させられるよう、2019 年度に設置した 18 課程自己点検・評価専門委員会において、2018 年度の学科専攻再編および教育課程改正について振り返りを行う際、検討する。

### (2) 国際英語学科スタディ・アブロード・プログラム、留学との両立

近年の CE 課程修了率低下の原因分析と合わせ、留学帰国後の学生の動向について、学内で蓄積しているデータを用い、さらに分析を行う。

国際英語学科については、スタディ・アブロード・プログラムによる学修成果の検証と合わせて、同学科所属学生の動向を引き続き確認していく。

CE 課程および CEI について、大学全体の英語教育の方針に基づき同課程の位置づけを再確認する。18 課程自己点検・評価専門委員会において、CE 課程の英語教育全体における位置づけや役割を再確認し、方針を再検討する。